

第 8 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時 2015 年 8 月 27 日 (月) 13:00~15:30

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

1. 実機調査を含めた炉内状況把握の全体戦略

NDF より、炉内状況の把握のために必要な情報は、その必要時期、精度、重要性を勘案した優先度をつけた上で、実機調査のみならず、事故進展解析の結果やプラントパラメータに基づく評価等も含めて総合的に分析・評価するとの「炉内状況把握を進める上での基本的な考え方」の説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 必要な情報の重要度分類を、関係者で十分に議論し共有すべき。どうしても必要な情報は、困難であっても手段を尽くして取得する等、メリハリのある情報取得計画とすべきである。
- 実機調査、事故進展解析等の情報を取得するためのいろいろな方法を、どううまく連動させるべきかを検討して効率的な情報取得を図る必要がある。

2. 2 号機の減圧後の原子炉圧力上昇に関する考察

東京電力より、2 号機の減圧後に発生した原子炉圧力の上昇について、圧力上昇と水素発生メカニズムの推定に基づいて原子炉圧力の水蒸気・水素発生量を定量的に評価して、他号機の挙動と比較しながら、2 号機の事故の進展挙動を考察した結果について説明があった。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 考察された事故進展挙動に基づいた場合に考えられるセシウムの挙動が線量率等の実データと整合するか等の確認を深めていくべきである。

3. 事故進展解析等による炉内状況把握の状況

IRID から、1~3 号機について、事故進展解析の解析条件、現段階での事故進展解析による燃料デブリの分布の推定結果と、事故後の実機プラントデータに基づく熱バランス法による熱源位置の推定結果等との比較について説明があった。事故進展解析の解析条件のうち消防車注水量等に大きな不確かさがあり、パラメータスタディによれば、消防車注水量による事故進展挙動への影響が大きいことが説明された。

専門委員からの主な意見は以下の通り。

- 事故進展解析のどの部分をどの程度まで改良していくかは、燃料デブリ取り出しの方法の具体的な検討に向けて何が重要かを見極めた上で、検討すべき。
- 事故後の実機プラントデータに基づく熱バランス法による熱源位置の推定結果は信頼性が高く、事故進展解析への有効なフィードバックとなるので、その結果は BSAF で解析を行っている海外の機関にもインプット

すべき。

4. その他

○次回の日程について

以 上